



はたからみる

國分莉佐子 / 齊木駿介 / 徳永葵

企画: 國分莉佐子、CASHI / 主催: CASHI、新宿眼科画廊 / 協力: myheirloom

【CASHI】

2023年2月24日(金)～3月25日(土)

会場: CASHI 〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-6-12-1F

開場時間: 11:00～18:00 *日～火曜休廊

<http://cashi.jp>

【新宿眼科画廊】

2023年2月24日(金)～3月15日(水)

会場: 新宿眼科画廊スペースM 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-18-11

開場時間: 12:00～20:00 *水曜のみ12:00～17:00 *木曜休廊

<https://www.gankagarou.com/>

この度CASHIでは、2023年2月24日(金)から3月25日(土)まで、國分莉佐子・斉木駿介・徳永葵による三人展「はたからみる」を開催致します。

現在私たちは、東日本大震災を皮切りにして新型コロナウイルスのパンデミック、ロシアによるウクライナ侵攻といった大規模な自然災害や社会政治問題が勃発し、日々供給される大量の情報やコンテンツを液晶越しに消費し続けなければいけない時代を生きています。本展覧会で取り上げる三名の作家たちは、こうした現代社会の日常を受け入れつつ、それぞれ独自の第三者的視点で切り取ろうと試みます。

國分は、ノスタルジックな日常風景や、幼少時代より慣れ親しんできたサブカルチャーコンテンツのイメージなどを抽象的な形に切り取り、歪め、鮮やかな色彩で描き出します。それらの表層的な美しさは、現代社会の追い求めてきた豊かさの表面性と、そこに漂うニヒリズムを浮き彫りにするかのようです。また斉木は、現実やネット上に溢れるイメージや記号を解体・再構築し、現実とネットが融合する現代の日常感覚をシニカルに描き出します。そうした彼の絵画は、液晶画面越しに消費せざるを得ない社会問題の数々を示唆すると同時に、画面の向こう側の存在である他者に対していかに共感し、寄り添えるかという問題を私たちに投げかけているかのようでもあります。一方徳永は、自身の幼少期の記憶をもとに描いた風景にペラペラの形状のキャラクターを挿入し、マンガ的表現を取り入れた絵画面を創り出します。臃げな記憶の中の風景とともに描かれた厚みのないキャラクターたちはどこか逃避的で、離人感(自分の身体、感情、思考、感覚などから主体性が失われ、自らの存在を非現実的に感じること)を連想させもします。

本展覧会は新宿眼科画廊との同時開催となります(開廊時間や休廊日等は異なりますのでご注意ください)。そちらもあわせ、この機会に是非ご高覧頂きたく、ここにご案内申し上げます。

國分 莉佐子

1999年東京都出身。2022年東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業。現在は東京藝術大学大学院美術研究科油画技法材料研究室に在学している。近年の主な展示に「P.O.N.D. 2022 ～IN DOUBT / 見えていないものを、考える。～」(PARCO MUSEUM TOKYO、2022)、「メランコリック日常」(Artas Gallery、2022)等。

斉木 駿介

1987年福岡県生まれ。2012年九州産業大学大学院博士前期課程芸術研究科美術専攻修了。近年の主な個展に「スクロールする風景」(GalleryYukihira、2020)、「スクショする風景」(Artas gallery、2020)、また近年の主なグループ展に「dpi」(KANZE ARTS、2021)、「非／接触のイメージ」(IAFshop*、2020)等。

徳永 葵

1999年鹿児島県出身。2022年京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業。現在は京都市立芸術大学大学院美術研究科美術専攻油画細目に在学している。近年の主な展示に、個展「記憶への代入」(myheirloom、2022)、二人展「ねじれが出会う位置」(YOD Editions、2022)等

CASHI

本件に関するお問い合わせ: info@cashi.jp

*徳永葵に関するお問い合わせは、直接myheirloom(contact@myheirloom.info)までお願い致します。

〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-6-12-1F tel : 03-5825-4703 fax : 03-5825-4704

開廊時間 : 水～土 11:00～18:00

JR浅草橋駅西口より徒歩5分

JR浅草橋駅東口・都営浅草線浅草橋駅A2出口より徒歩10分

JR秋葉原駅昭和通り口・東京メトロ日比谷線秋葉原駅1番出口より徒歩10分

